

仙人通信 92 富士見山(1640m)

富士見山は甲府の西・巨摩山地の南の端で、富士川と早川に挟まれた山梨 100 名山である。旧中富町役場の信号を入り、標高 700m にある修験者道場「やすらぎの宮」がある堂平からスタートである。満開の桜の下の句碑や旗指物を抜けて檜と杉の林に入る。登山者が無い性だろうか、濡れた落ち葉や小枝が散乱しており歩き難いが反面、道標は 30m 間隔で、又標高 50m 間隔で標記がなされて設置されており、山頂まで迷う心配はない。黒モジヤコウヤボウキの新芽が膨らみ春を待つ。55 分ほど歩いた所で尾根に出る。1100m にある造林小屋である。尾根の北側が開けて甲府方面が梢越しに望める。大菩薩であろうか僅かに雪がある。暗い杉・檜から唐松・赤松の林と明るい登山道となる。梢越しではあるが白い富士山が青空に映え、反対側では大菩薩から金峰山までが確認できた。猿が仲間を呼ぶのであろうか頬笛を吹く、「ホーホー」とこちらにも負けずに返す(大人化ないが・・)。黄色いアブラチャンの花やキブシの花が咲き、風も無く穏やかな早春の山路だ。1150m 位から路は山の東北側となる。そこには緑の葉にチョココンと花芽を乗せたエンレイソウだ。再び日の当るコースだ。足元に手榴弾を小さくした形のブナの実と殻である。見上げると大きなブナが林立する尾根だ。「もう逢うことは無いよな」なんて言いながら幹に触れ元気を貰う。1 時間 50 分で山王分岐だ。常に背中に富士山を意識して登るが、梢が切れる事は無い。緩やかにうねる富士川の流れや街並みが望める。2 時間半で御殿山分岐に出る。唐松の梢越しではあるが、真白に雪の冠を戴いた間ノ岳から聖までが望める。小さな社や帰路の平須への分岐を過ぎ展望台の山頂までは 30 分である。鳳凰三山・甲斐駒・北岳・間の岳・農鳥・塩見・荒川・赤石・聖そして笹や青雉で遮られ頭だけの光と真白な南アルプスが梢越しであるが青空に浮かぶ。天守山地の上には富士山がこちらも見事だ。2 等三角点のある富士見山山頂は更に 30 分アップダウンを繰り返す。この尾根は梢さえ無ければ最高なのだが……。早川沿いに韮崎・静岡構造線、この構造線に平行して櫛形山から櫛形山断層が、反対側の富士川沿いには富士見山衝上断層が平走する。山全体は十谷火山角礫岩から成る八町山累層であり。両サイドが削がれた尾根で構成されている山容だ。山頂は展望台より若干低いが 2 等三角点の標識があり、威厳がある。帰路は梢越しの富士山を見ながらのブナ・唐松・水楢・アセビの尾根で時折、沢頭に鎖があるが、なだらかなコースである。ヤマガラ・ゴジュウカラ・コゲラ等が鳴き先導してくれる。標高 1200m の地点の陽だまりでスマレが健気に咲いていてくれて嬉しい。更に咲き始めたハシリドコロも眩しい。標高 1100m からは登り同様に檜・杉の暗い山路である。標高 800m で足元から、静けさを破り雄の山鳥が飛び出したのには、ど肝を抜かれた。さらに 100m 下がり林道に出る。林道を 15 分ほどで堂平に戻る。途中の崖に黄緑色の笠状の花を発見して、近づくと何と野生のカイバイモである。山路の最後にすばらしい山からの贈り物に巡り逢えて、今日も山路を満喫した好運な 6 時間でした。(h 2 2 . 4 . 1 4)

富士山(展望台から)



甲斐駒から連なる南アルプス



カイバイモ

